

移住先：山本郡三種町

2013年3月 東京都中野区から移住  
 ◆年齢 / 50代 ◆出身地 / 宮城県仙台市  
 ◆現在の家族構成 / 妻・子ども3人(中3、中1、小4)

# 森山 大輔さん



◆移住前のご職業 / 会社員  
 ◆移住後のお仕事 / 農業

## 移住したきっかけは何ですか？

東京で外資系金融機関に勤めていた2008年にリーマン・ショックを経験。経済の拡大を追い求めることの限界を感じました。

子どもがいたこともあり、次の世代に引き継げる本質的な価値を大切にしたい。持続可能な働き方、暮らし方を模索するようになりました。

はじめのうち妻は本気にしてくれませんでした。2011年の東日本大震災を機に妻も暮らし方を見直すようになり(妻も仙台出身でした)、新たな舞台として出身地の東北、中でも土地に根ざした豊かな文化が残る秋田を候補として具体的な計画を立て始めました。

当時は移住者受け入れをしている自治体や地域は多くありませんでしたが、三種町ではNPO法人「一里塚と行政が受け入れ態勢を整えてくれたのも背中を押してくれました。家族と2年ほど休みの度に会いながら準備をすすめ、2013年春、三種町に移住しました。



## 移住前と後での暮らしの変化で大きかった事は？

移住前までは都市での暮らしでしたので、農村地域のコミュニティの一員になるのは初めて。地域の人の距離の近さ、つながりの強さに驚かされました。はじめは距離感がつかめずに戸惑いましたが、思い切っって入り込んでしまえばこれほど居心地のいいところはないと感じています。

他人事がないのが農村の地域コミュニティの凄さだと思います。以前、田んぼの稲刈りが遅れていた時に

## 現在の仕事や活動など取り組んでいること

移住後は有機野菜の宅配農家として働いていますが、想定外の事だらけで経営面は大変です。仕事としての面白さは最高なのですが……。



は気になって仕方ないといわれ、大勢で稲刈りを手伝ってもらったこともありましたが、これが象徴的な出来事でした。  
 お金の面では収入は激減しましたが、消費する機会も激減しているので、ひもじさを感じません。都市生活でいかに消費させられていたのかを実感します。子どもの教育費だけは同じようにかかるのでそれだけは懸念事項ですが。



## 地域のコミュニティと共に暮らす

いづくために移住者なりの役割があると思いい、できることから頑張っています。秋田県内の他の自治体同様、三種町も少子高齢化により多くの課題を抱えています。移住者だから気づけること、発言できることがあると感じています。

はじめの頃は獅子舞や盆踊りなどの伝統行事、地域の共同作業等に積極的に関わりました。このことで地域を知ることができ、コミュニティの仲間入りもできたと思います。

地域に馴染んでからは、地元の方と一緒に世代間交流の会を立ち上げてイベントを開催したり、田んぼイベントを開催して昔の田植え唄を復活させたり、主体的な活動もできるようになりました。先輩移住者として移住者受け入れにも取り組んでいます。  
 人口と財源が減っていく中でも町や地域を持続可能な形にするべく、現在移住者が中心になって住民自治を担う地域NPOを立ち上げる準備を進めています。



ご本人に移住後の暮らしについて聞きました。

### ①移住後の暮らしの満足度について

- ・仕事面……………やや満足
- ・人づきあい面……………大いに満足
- ・住まい面……………大いに満足
- ・生活面……………大いに満足
- ・経済面……………少し不満
- ・総合的に……………大いに満足

### ②生活費の中で負担に感じる出費を3つあげて下さい。

- 水道光熱費
- 保険料や租税
- 車代や移動交通費
- 将来の子供の教育費

### ③生活費の全支出100%として、各支出の占める割合

- ・食費や日用雑貨……………20%
- ・水道光熱費……………10%
- ・保険料や租税……………20%
- ・車など移動交通費……………15%
- ・趣味や活動交際費……………5%
- ・家賃等の賃料……………7%
- ・その他……………23%